

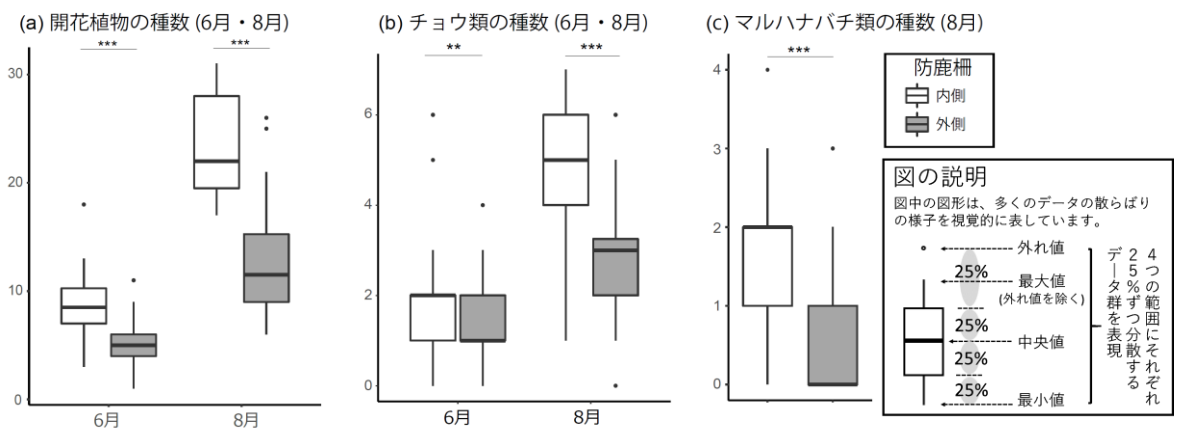


## シカの侵入を防ぐ柵（防鹿柵）の設置は草原の植物や昆虫の多様性を回復させることが分かりました。

兵庫県立大学自然・環境科学研究所/兵庫県立人と自然の博物館、東京大学、森林総合研究所、神奈川大学、長野県環境保全研究所の研究グループは、霧ヶ峰での調査から、シカの侵入を防ぐ柵（防鹿柵）を設置することで、草原内の開花植物や昆虫（チョウとマルハナバチ）の多様性が回復することを明らかにしました。本成果は4月8日付で国際科学誌「Biodiversity and Conservation」に掲載されます。

### 【研究の概要】

- 長野県霧ヶ峰において、総面積 27ha<sup>\*</sup>に及ぶ防鹿柵内外の複数の地点で開花植物の種数、チョウとマルハナバチの種数と個体数を比較し、柵の設置による多様性の回復効果を検証しました。（※近隣の八島ヶ原湿原を除く）
- シカが侵入できない柵の内側では柵の外側よりも開花植物の種数、チョウとマルハナバチの種数・個体数ともに多い傾向にありました。
- 開花植物の種数が増加するほど、チョウやマルハナバチの種数が増加することから、こうした訪花昆虫の多様性を維持するためには、より多くの開花植物の保全が重要であることが示されました。



防鹿柵内（白色）と柵外（灰色）における開花植物、チョウ類、マルハナバチ類の種数の違い。マルハナバチは6月には見られなかったため、8月のみのデータ。いずれの時期でも、防鹿柵の外側よりも内側で種数が多い。

本研究は、公益財団法人自然保護助成基金第28期（2017年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成による支援を受けて実施されました。



【長野県は「SDGs 未来都市」です】

SDGs（持続可能な開発目標）は、美しく、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざし、世界みんなで取り組む目標です

環境保全研究所 自然環境部（飯綱庁舎）  
（次長）渡辺昭生（担当）須賀 丈  
TEL 026-239-1031（代表）  
FAX 026-239-2929  
E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

環境部 環境政策課 総務係  
（課長）真関 隆（担当）戸谷亮太  
TEL 026-235-7171（直通）  
026-232-0111（代表）内線 2714  
FAX 026-235-7491  
E-mail kankyo@pref.nagano.lg.jp